

奈弓連だより

通巻 214号

令和元年 12月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 野尻賢司 山本悦子

連絡先 : henshu@narakyudo.jp

奈良県臨時地連審査

**級位 33名、初段 27名、弐段 11名、参段 4名、
四段 1名が合格**

12月15日(日)ならでん(奈良市)弓道場に於いて第284回臨時地連審査会が開催されました。結果は次のとおりです。

級位 受審者 37名 欠席 1名 合格 33名
(1級 24名、2級 9名、原級 3名)

初段 受審者 32名 欠席なし 合格 27名

弐段 受審者 20名 欠席なし 合格 11名

参段 受審者 19名 欠席なし 合格 4名

四段 受審者 15名 欠席なし 合格 1名

(審査部 平木一史)

中堅層講習会

県連の将来を担う中堅層が射技を磨く

10月27日(日)檀原公苑弓道場に於いて、第1回中堅層講習会が行われました。主任講師に西浦先生、講師に藤岡先生をお迎えして、参加者24名が熱心に受講しました。

開講式では西中会長より、各地で台風の被害が広がっている中、こうして弓を引ける事を幸せに思う。中堅層の年代は一番弓を引ける年齢ではあるが、仕事や家庭の事情など難しい年代でもある。また、弓に関しては中てないと評価されない。正しさの中、成功する弓を引く事が大切で、稽古で上達すると挨拶されました。また、主任講師の西浦先生からは、今年は、射技の向上に重点を置く講習会にしたい。県連の将来を担う君たちには射技を磨き、昇段を願っているとお話がありました。

矢渡し後、藤岡先生から丁寧すぎて、射手を待たせる事のないように、常に射手を引き立てるようにする。西中会長からは、目立たない、邪魔をしない、体を休ませない。介添えが美しいと、射手が引き立つ。西浦先生からは、回数をこなし、慣れる事が必要と介添えの講評を頂きました。

一手行射、講評の後、射技での注意点で

- ・矢番え～矢は水平に。
- ・左肘を生かす。
- ・立ち方～弓矢を捧持し、矢は口割りから鼻の間で保つ、ひょいと立たない。
- ・足踏み～一足の場合、両足全体を揃えず、足先を揃える。
- ・踵を上げそっと下ろした位。
- ・胴造り～もっと攻める。

昇格、昇段おめでとうございます

11月30日 京都市武道センター主競技場特設会場で行われた【近畿地区】臨時中央審査会において、また12月15日ならでん(奈良市)弓道場で行われた地連審査会において、次の方がそれぞれ昇格、昇段されました。

錬士 岡野 行光 (奈良支部)

四段 吉川 憲康 (郡山支部)

おめでとうございます。

(事務局)

- ・膝頭に弓を置く際～矢を水平にする意識を持つ。
- ・取懸～相寄る。
- ・大三～弓手に妻手が付いてくる。
- ・弓の強さを肘で感じる。
- ・会～胸を張らずに、背中を使う。
- ・手の内～握りに工夫。
- ・離れ～脈所で押す。

などの説明がありました。

午後からの3方向相互射技と射技研修での注意点を記録用紙に記入し、次回の講習会に持参することとし、終了しました。



射技指導を受ける受講生たち

(指導部 松村由喜子)

奈良女子弓道大会

中学から一般までの女子 100 名が参加

11月23日(土)、温かな秋晴れのなか、ならでん(奈良市)弓道場に於いて第37回奈良女子弓道大会が開催され、中学、高校、大学、一般の計100名が参加。「優雅のうちに、容姿凛然たること」を目指した熱戦を繰り広げるとともに、競技運営を実践で学ぶ機会となりました。

団体戦では16中の天理大学が優勝、個人戦では式段以下の部9名、参段以上の部7名が決勝に進み、凌ぎを削りました。結果は次の通りです。

団体戦

- 1位 樫原 (東中千佳、衛藤明美、前川なつき)
- 2位 天理大 (宮本佑香、生駒佳永、礪江ほのか)
- 3位 畝傍高 (大枝里奈、綿井遙、三浦示早)

個人戦

式段以下の部

- 1位 藤野沙羅 (奈良医大)
- 2位 生駒佳永 (天理大)
- 3位 川上朋華 (西の京高)

参段以上の部

- 1位 山本悦子 (奈良支部)
- 2位 丸山あずさ (樫原支部)
- 3位 辰巳好美 (奈良支部)



熱戦を繰り広げる選手たち



団体戦、個人戦の入賞者たち

(奈良支部 高倉美香)

奈良県大学選手権大会

団体:男子は奈良県立医科大 A が、女子は天理大 A が優勝、 個人:男子は斎藤武道(奈良大)、女子は清水千雅(天理大)各選手が優勝

11月24日(日) 樫原公苑弓道場に於いて第32回奈良県大学選手権大会が開催されました。結果は次のとおりです。

男子団体戦

- 1位 奈良県立医科大 A、
- 2位 天理大 B、
- 3位 奈良県立医科大 B

女子団体戦

- 1位 天理大 A、
- 2位 天理大 B、
- 3位 帝塚山大 A

男子個人戦

- 1位 斎藤武道 (奈良大)、
- 2位 鍵谷悠喜 (天理大)
- 3位 伊藤千貴 (奈良県立医科大)

女子個人戦

- 1位 清水千雅 (天理大)、
- 2位 生駒佳永 (天理大)、
- 3位 金香会 (奈良県立医科大)



団体戦、個人戦で入賞した選手たち

奈良県大学選手権を終えて

今年は帝塚山大学が主幹を務めさせて頂きました。慣れないことだったためバタバタしたこともありましたが、先生方や選手の皆様のご協力もあり、無事終えることができました。至らない点が多かったと思いますが、支えていただきありがとうございました。また、私自身試合を通して他大学との交流が増えたことをうれしく思っております。これからも切磋琢磨して成長していけたらと思います。試合を運営しながら自分も弓道をするという幹事校は非常に大変でしたが、良い経験でした。本当にありがとうございました。

(帝塚山大学弓道部 水内野々華)

近畿高等学校弓道選抜大会

男子団体で橿原高校が3位入賞

11月24日(日)大阪城弓道場で第27回近畿高等学校弓道選抜大会が開催されました。結果は次の通りです。

個人戦(4射3中以上予選通過)

女子予選

柏木 都 (高田商業)	2中
北浦有希 (五條)	2中
川元実来 (法隆寺国際)	1中
廣田 愛 (高田商業)	1中
落合珠梨 (郡山)	1中
森田菜月 (橿原)	3中 (通過)

女子決勝射詰

森田菜月 (橿原) × 遠近法により7位入賞

男子予選

植田力斗 (奈良)	3中 (通過)
松尾 准 (平城)	3中 (通過)
森川雄斗 (平城)	1中
植田竣飛 (橿原)	2中
新山章太郎 (奈良北)	4中 (通過)
稲岡勇仁 (郡山)	2中

男子決勝射詰

植田力斗 (奈良)	○×
松尾 准 (平城)	○○× (8位入賞)
新山章太郎 (奈良北)	○○○○×

(遠近法により3位入賞)

団体戦(各自4射チーム12射 上位8校が決勝トーナメント進出)

女子予選

高田商業 4中
(竹原見幸・柏木都・廣田愛・都築ひかり)
橿原高校 6中
(大和田温菜・池田朱蘭・平松美久・森田菜月)
榛生昇陽 5中
(沼田優美香・吉田萌衣・桶谷咲弥香・倉田幸奈)

男子予選

平城 8中 (通過)
(植西颯平・井岡岳斗・松尾准・横尾風哉)
奈良 5中
(植田力斗・梶浦光右・岸本寛矢・竹中勇太)
橿原 7中 (通過)
(松岡賢・田中蒼翔・宮崎真一・植田竣飛)

男子決勝トーナメント

1回戦

橿原 10中	対	大阪学院大 5中	勝ち
平城 5中	対	浪速 11中	負け

2回戦

橿原 6中	対	岸和田産業 7中	負け
橿原高校	3位入賞	(高体連 藤本佳照)	

奈良県中学校弓道新人大会

団体:男子は橿原Bが、女子は香芝Aが優勝

第45回奈良県中学校弓道新人大会が11月17日(日)に橿原公苑弓道場に於いて開催されました。新チームになって、初めての県大会でした。天気も良く弓道の大会には絶好の日和でした。参加人数は、男子44名、女子75名でした。総合の部は近的8射・遠的8射合計16射で、1年生の部は近的8射で実施されました。

結果は次の通りです

個人戦

男子

優勝 岡 大晴 (橿原)
2位 森本 達也 (橿原)
3位 荒木 快 (天理南)

女子

優勝 細川 友里愛 (橿原)
2位 肌勢 志穂 (白橿)
3位 安本 有里彩 (大成)

団体戦

男子

優勝 橿原B (森本 窪田 森本)
2位 橿原A (岡田 松井 岡)
3位 天理南B (間部 今中 早川)



男子団体の入賞者前列1位、後列左2位、右3位

女子

優勝 香芝A (中岡 本城 大塚)
2位 橿原A (細川 宇野 森崎)
3位 橿原B (田中 湯浅 小俣)



女子団体の入賞者 前列1位、後列左2位、右3位

1年生個人の部

男子

優勝 田中 航大 (白櫃)
2位 喜連 悠斗 (八木)
3位 竹田 匠汰 (香芝)

女子

優勝 中村亜衣里 (櫃原)
2位 藪内 美来 (櫃原)
3位 吉村 悠里 (八木)



個人戦の入賞者 前列左から2年男子1位～3位
女子1位～3位 後列1年生個人の部入賞者
左から男子1位～3位、女子1位～3位

(中体連 中前芳一)

編 | 集 | 後 | 記

今年の奈弓連便りを今一度読み直しました。吉本清信先生が「三重十文字と胴造りをしっかりして。射品・射格などそれぞれの求められているものを普段の日常生活の中でも心がけて。一緒にやる人への気配りは一つの時だけでなく、射会や催しなどの時にも必要であり、お互いを気遣うことが大事。弓をやってよかったですと思えるようにしてほしい。」と弓道の原点について語っておられます。

先生は、今年は三重十文字の重要性を特に強調し、指導されてきました。三重十文字が正しく構成されているかを胴作りの段階で正面、背面、横から見て確認されます。引き分けにおいてもこれを維持、体を弓の中に割り込ませ、会では下腹部を押さえて「もっと、もっと」と、しっかりと息が丹田に収まるよう指導されました。簡単に「三重十文字」といいますが、これを正しく行うことがいかに難しいかを、知り、学び直す年でした。

今年1年間、編集へのご協力ありがとうございました。来年もご支援をお願いします。

編集担当 野尻賢司